



JA北九 自己改革実践中!!

今月号から全3回でJA北九の自己改革実践状況をお伝えします。第1回は、営農分野(前編)です。JAグループはこれまで、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を柱に、事業・組織の改革(自己改革)に取り組んできました。平成28年4月には改正農協法が施行され、現在も事業の見直しや准組合員の利用規制を迫られています。また、TPP11や日欧EPAなど貿易の自由化が加速し、農業を取り巻く情勢は厳しさを増す一方です。このような国内外から吹きつける寒風に対し、JA北九は組合員の皆さまから真に必要とされる組織であるために、これまでの取り組みを強化しつつ、新たな取り組みにも着手してきましたので、その一部を実績とともにご報告します。

営農分野(前編) 農業者の所得増大に向けて 出向く、話す、反映させる! 想いを受け取る挑戦

TACによる個別訪問相談

TACは、地域農業の担い手に出向くJA担当者。「とことん」会って、「コミュニケーション」を合言葉に、農事組合人や大規模経営農家を個別訪問し、経営改善サポートに取り組んでいます。農業者の所得増大には、その課題把握が第一であるという考えのもと、訪問活動の強化・徹底に取り組んでいます。



全職員で取り組む 組合員訪問活動

農家組合員の皆さんの経営課題を把握し、また、JAに対するご意見・ご要望を伺うため、役員主体となつて訪問活動に取り組んでいます。訪問の際はぜひ皆さまの率直な声をお聞かせください!



農家所得を上げる! 販売力強化への挑戦

付加価値を高め、販売価格を上げる

平成29年度、若松湖風キャベツ生産者4戸で県内JA初となるグローバルGAP認証を取得しました。また、米は色彩選別機を導入し、更なる品質向上をはかりました。農産物の付加価値を高め、安全・安心な出荷に取り組んでいます。



新たな販路の拡大

プロツコリーは生産面積を拡大し、東京への契約販売を開始。キャベツは平成27年度、28年度は台湾へ、29年度は香港へ輸出しました。また、北九州市との連携で特産品である高倉びわを香港へ輸出。国内外の販路拡大に取り組んでいます。



新規品目への挑戦

平成27年度より、イオンとの契約販売の新規品目として西部・東部でロマネスコカリフラワーの生産に取り組んでいます。安定的な所得確保を目指し、講習会などを開催しています。



直売所のリニューアル

直売所の魅力をもっと多くの方感じていただくため、平成28年度に大地の恵み西中店の建て替えを行い、29年度には、かつばの里若松店をリニューアルしました。

販売品販売高

	H27(2015)年度	H29(2017)年度
米	7億1604万円	8億5039万円
麦	6626万円	7209万円
豆・雑穀	3106万円	1326万円
野菜	12億7664万円	14億160万円
果実	3325万円	3503万円
花卉	1252万円	861万円
畜産物	1億5903万円	1億1401万円
林産物	9111万円	6699万円
直売所	16億1561万円	18億4487万円
その他	1億3365万円	1億1054万円
合計	41億3517万円	45億1739万円



JA北九はこれからも農業者の所得増大に向けた取り組みを進めていきますので、ご支援ご協力よろしくお願致します。

